

2021/4/3

(うとQ世話し 第二のルネッサンス (人間復古) 期、到来?)

社員をどう考えるか?

「給料を奪う者」として考えるか、

それとも

「売上をもたらす者」として考えるか、

の間には雲泥の差があります。

今から30年ほど前のバブル崩壊期に前者の考え方を採った我が国経営者さん達は、多くの人を解雇し、その「二流どころの技術者さん達」が回り回って、他国で一念発起し、第二の人生を始めた結果、安くて良い物が海外から逆輸入され、結果、我が国はそれらの品物に席卷されて、その後「失われた30年間」を過ごす羽目になりました。

益々解雇の波が襲ってきて、それが定着してしまったのです。

(但し、行った先の他国で、ノウハウを吸い取れ尽くしてしまった彼らのその後は、不明です。向こうでも使い捨てカイロになっていないことを祈ります)

仮に、もし、その当時の経営者さん達(或いは行った先の他国の今の経営者さん達も同じ事が言えます)が、後者の考え方を採って

「今はお荷物になるかもしれないが、それを踏ん張れば、中には意気に感じて、その先、近い将来、大きな成果をもたらしてくれる者が出てくるかもしれない。今はそれを信じて彼らに賭けてみよう」

という事をしていたら、結果論ではありますが、ひょっとして、我が国はここまで長期のデフレ地獄を味わわなくて済んだかもしれません。

翻って今度は、今コロナ渦で、同じような事態が起こりつつあります。

そうして、次に予測されるのは、保護貿易主義と物流網の寸断によっての悪しきインフレ(物価上昇)下の賃金の伸び悩み、つまりスタグフレーションが起きることです。

そうすると今度は、若い人を中心に、前向きな「海外への頭脳流出」が起きることになりそうです。

それが現実となれば、我が国は先進国の中で、第一番目に疲弊してしまいそうです。

さて、どうすれば良いのか?

これはもう「国家100年の計」レベルの話でしょう。

付け焼き刃で対症療法的な議論や手段を止めて、一から考え直してみる必要があるような気がしております。

将に

「急がば回れ」

で

「肚(肝)を据えて掛る」

必要を、ひしひしと感じております。

「人は神ではない。しかし道具でも駒でもない」

換言すればAIに使われるのではなく、道具として使いこなせる人材を育成する「人本主義」が求められている気がいたしております。

かつて欧州では神中心から人さま中心へのシフト、即ちルネッサンス（人間復古）が起りましたが、今回は道具や概念（信用価値＝貨幣や思潮、様式）中心から「本来の生き物としての地球閑居と和せる元気な人」を取り戻す第二のルネッサンス（人目人科人間復古）の大転換期二当たっているのかもしれませんが、ね。

（近況・追記）

個人の確定申告と会社の年度末決算作業で、ばたばたしておりますので、しばらくは投稿の間隔が空くかもしれませんが、宜敷お願い申し上げます。